

聖霊降臨節第 15 主日礼拝
2021年8月29日 10:30
日本基督教団 代々木上原教会 礼拝堂

司式: 廣石望牧師
奏楽: ヒムプレーヤー

前 奏

招 詞 マタイによる福音書 16 章 24 節

(イエスは言われた)「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」。

讃美歌 18 番(「心を高くあげよ!」) *3 ページをごらんください

聖書朗読

旧約聖書 ヨブ記 4 章 12~20 節

12 忍び寄る言葉があり／わたしの耳はそれをかすかに聞いた。13 夜の幻が人を惑わし／深い眠りが人を包むころ 14 恐れとおののきが臨み／わたしの骨はことごとく震えた。15 風が顔をかすめてゆき／身の毛がよだった。16 何ものか、立ち止まったが／その姿を見分けることはできなかった。ただ、目の前にひとつの形があり／沈黙があり、声が聞こえた。17 「人が神より正しくありえようか。造り主より清くありえようか。18 神はその僕たちをも信頼せず／御使いたちをさえ賞賛されない。19 まして人は／塵の中に基を置く土の家に住む者。しみに食い荒らされるように、崩れ去る。20 日の出から日の入りまでに打ち砕かれ／心に留める者もないままに、永久に滅び去る。

新約聖書 コリントの信徒への手紙二 4 章 7~16 節

7 ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。8 わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、9 虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。10 わたしたちは、いつもイエスの死を体にまもっています、イエスの命がこの体に現れるために。11 わたしたちは生きている間、絶えずイエスのために死にさらされています、死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。12 こうして、わたしたちの内には死が働き、あなたがたの内には命が働いていることとなります。13 「わたしは信じた。それで、わたしは語った」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っているので、わたしたちも信じ、それだからこそ語ってもあります。14 主イエスを復活させた神が、イエスと共にわたしたちをも復活させ、あなたがたと一緒に御前に

立たせてくださると、わたしたちは知っています。15 すべてこれらのことは、あなたがたのためであり、多くの人々が豊かに恵みを受け、感謝の念に満ちて神に栄光を帰すようになるためです。16 だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。

祈 禱

説 教「新たな希望」

廣石望牧師

祈 禱

讃美歌 454 番(愛する神にのみ 1-4 節) *5 ページをごらんください

献 金

(礼拝当番による祈りに続いて「主の祈り」をささげましょう。)

天にまします我らの父よ。願わくは御名(みな)をあげさせたまえ。御国(みくに)を来たせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用(にちよう)の糧(かて)を今日も 与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦(ゆる)すごとく、我らの罪をも赦したまえ。

我らを試(こころ)みにあわせず、悪より救いいだしたまえ。国と力と栄えとは、限りなく汝(なんじ)のものなればなり。アーメン。

祝 禱<派遣と祝福>(ご無理のない方はご起立ください)

後 奏

「心を高くあげよ！」

"Lift up your hearts!" we lift them, Lord, to Thee
 詞：Henry M. Butler, 1833—1918

SURSUM CORDA
 曲：Alfred M. Smith, 1879—1971

1 「こころを高くあげよ！」主のみこえにしたがい、た
 2 きりのようなうれいも、やみのようなおそれも、み
 3 主からうけたすべてを、ふたたび主にささげて、き
 4 おわりの日がきたなら、さばきの座を見あげて、わ

だ主のみを見あげて、こころを高くあげよう。
 ▶ なうしろになげすて、こころを高くあげよう。
 ▶ よきみ名をほめつつ、こころを高くあげよう。
 ▶ がちからのかぎり、こころを高くあげよう。

(♩=63)

1 「こころを高くあげよ！」
 主のみ声にしたがい、
 ただ主のみを見あげて、
 こころを高くあげよう。

2 霧のようなうれいも、
 やみのようなおそれも、
 みなうしろに投げすて、
 こころを高くあげよう。

3 主からうけたすべてを、
 ふたたび主にささげて、
 きよきみ名をほめつつ、
 こころを高くあげよう。

4 おわりの日がきたなら、
 さばきの座を見あげて、
 わがちからのかぎり、
 こころを高くあげよう。

ア-メン。

コロ3:1-4 哀3:41 ヘブ12:1-2

愛する神にのみ

Wer nur den lieben Gott lässt warten
詞 : Georg Neumark, 1621—1681

WER NUR DEN LIEBEN GOTT
曲 : Georg Neumark, 1621—1681

1 あいす るかみ に の み よ り た の む も の は
2 こ の な や み く る し み だ れ が し る の だ ろ う 。 ▶
3 し か し 主 の め ぐ み は だ わ た し た た ち に だ み ち
4 よ ろ こ び の 日 を 主 は そ な え て く だ さ る 。 ▶

く し み の と き に も ふ し ぎ に ま も ら れ
▶ こ の い ら み た の な き に を だ し が な ま さ ら め よ う 。 ▶
▶ や す ら た ぎ を ま あ ち の え て せ つ り な を あ り わ ぞ す け
▶ そ の 日 を ま ち の ぞ み ま よ い を を し り ぞ け

い わ を ど だ い と し た つ い え の よ う だ
▶ む な し ぐ お も の は た つ い え の よ う だ
▶ え ら ば ぐ ら も の は た つ い え の よ う だ
▶ み こ こ を し ら ぐ ら も の は た つ い え の よ う だ
▶ っ こ こ を し ら ぐ ら も の は た つ い え の よ う だ

(♩.=46)

- 1 愛^{あい}する神^{かみ}にのみ 依^より頼^{たの}むものは
 苦^{くる}しみの時^{とき}にも ふしぎに^{まも}守られ、
 岩^{いわ}を土台^{とだい}とし 建^たつ家^{いえ}のようだ。
- 2 この悩^{なや}み苦^{くる}しみ、誰^{だれ}が知^しるのだろう。
 この痛^{いた}み嘆^{なげ}きを誰^{だれ}がなぐさめよう。
 むなしく重^{おも}荷^には 増^ふえていくばかり。
- 3 しかし主^{しゅ}の恵^{めぐ}みは 私^{わたし}たちに満^みち
 安^{やす}らぎを与^{あた}えて 摂^{せつ}理^りをあらわす。
 選^{えら}ばれたものに ふさわしく生^いきよう。
- 4 喜^{よろこ}びの日^ひを主^{しゅ}は 備^{そな}えてくださる。
 その日^ひを待^{まち}ち望^{のぞ}み まよ^{しりぞ}いを退^{しりぞ}け、
 心^{こころ}を信^{しん}じ 目^め旨^ねに従^{したが}おう。

マタ7：24-25 詩62：2-3, 118：6
 ロマ8：31 申31：8

